

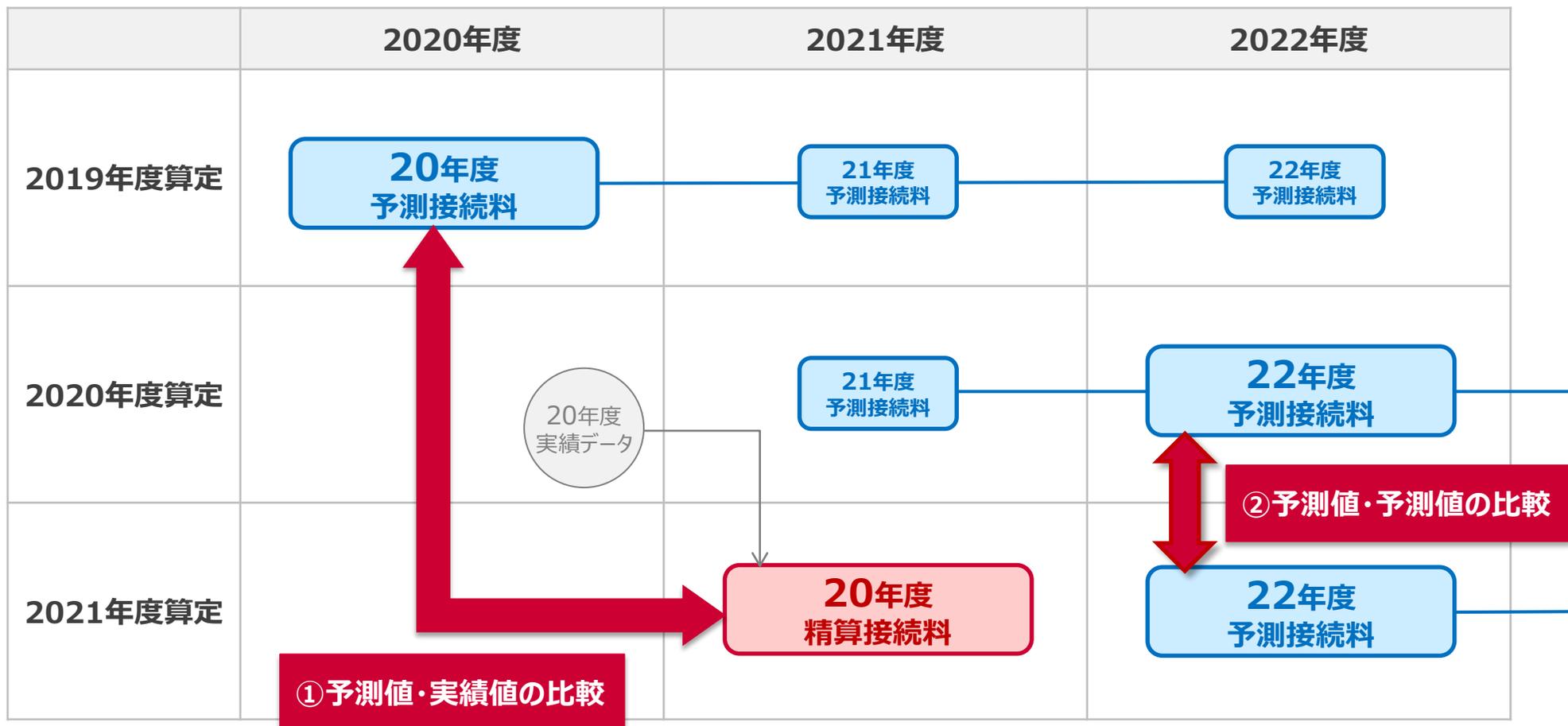
「接続料の算定等に関する研究会（第58回）」 ヒアリング資料

NTT
docomo

2022年 5月27日

予測接続料について

- 予測接続料は2019年度より導入され、毎年度算定の精緻化に努めているところ、予測値との差分について、①②それぞれ比較する



① 予測値・実績値の比較

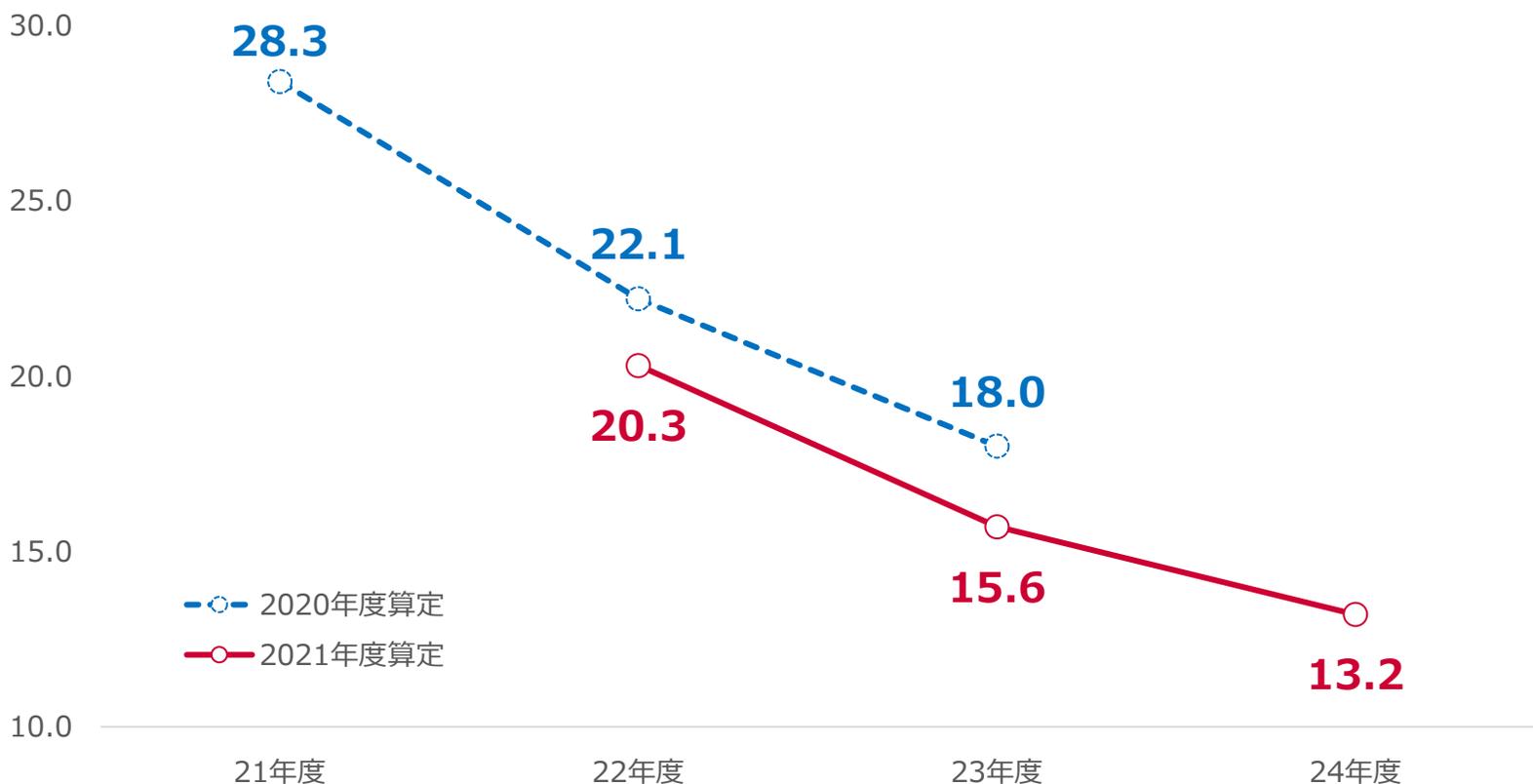
- 比較の対象となる2019年度算定は、過去の実績値からの推計（トレンド）を採用
→2020年度算定より、トレンドではなく、**見込みを用いた算定に見直し**

| | 予測値（2019年度算定） | 実績値 | 増減率 |
|------------------------|---------------|------|------|
| | 構成員限り | | |
| 原価 (億円) | | | |
| 利潤 (億円) | | | |
| 需要 (Gbps) | | | |
| 接続料単価 (万円/10Mbps・月) | 41.4 | 37.3 | ▲10% |

② 予測値・予測値の比較

- 2021年度算定の予測接続料は、最新の見込みを用いることで、**2020年度算定の水準より低廉化**

(単位：万円/10Mbps・月)



② 予測値・予測値の比較

- 2021年度算定は、前回と比較して、**需要は5G普及により増加**するが、**原価はコスト効率化等によりほぼ同水準**、**利潤はβ低減により減少**すると見込む

| | 2021年度算定 (今回) | | | 2020年度算定 (前回) | | | 増減率 | |
|--------------|------------------|------|------|------------------|------|------|------|------|
| | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 22年度 | 23年度 |
| 原価 (億円) | 構成員限り | | | | | | | |
| 利潤 (億円) | 構成員限り | | | | | | | |
| 需要 (Gbps) | 構成員限り | | | | | | | |

高品質で経済的なネットワークの実現

速さ・広さで他社を上回る5G顧客体験の追求と
経済的かつ信頼性の高いネットワークへの変革

他社を上回る5G顧客体験



すべての市区町村へ5Gを展開※3

(瞬速5G + 4G周波数帯の5G)

構造改革による経済性の追求・信頼性の向上

設備運用コストの効率化

- ✓ J TOWERへの鉄塔売却・インフラシェアリング
- ✓ 3Gマイグレの段階的前倒し

DX等による業務の生産性向上

- ✓ 現地設備保守のリモート支援（稼働効率化）
- ✓ ゼロタッチオペレーション等の自動化

人為故障の撲滅に向けた体制強化

- ✓ ネットワーク工程監理部門を設置し、装置導入や工事等の工程を一元的に監理（7月予定）

※1 2022年4月28日時点で2万局を突破（新周波数Sub6・mmW）。

※2 「5G Download Speed」とは5Gネットワークにおいてユーザーが体感する平均ダウンロード速度。「5G Reach」とは5Gユーザーが訪れたすべての場所のうち5Gネットワークに接続できた場所の割合を示す指標。
出典：Opensignal Awards - Japan Mobile Network Experience report April 2022, based on independent analysis of mobile measurements recorded during the period [01 Dec 2021 to 28 Feb 2022]. ©2022 Opensignal Inc.

※3 2023年度末時点。

予測接続料の情報開示

- これまでは、予測接続料の算定方法について、トレンドから見込みを用いた点を説明
- 今後は、どのように見込んだのか、その考え方について、情報を開示していきたい

2019年度算定

過去の実績値からの
推計（トレンド）

2020年度算定

算定区分の全てに
おいて予測対象年度
の見込みを反映

2021年度算定

予測対象年度の
見込みの考え方
を開示

【参考】予測接続料における見込みの考え方

| 項目 | | 構成員限り | 予測に用いた算定方法に関する情報 |
|------|------------------|-------|------------------|
| 回線容量 | 第二種指定 設備管理運営費 | | |
| | 正味固定 資産価額 | | |
| | 需要 | | |

各論点に対する当社意見

予測の算定方法に関する論点

| カテゴリ | 論点 | 当社意見 |
|--------|---|--|
| 予測算定方法 | <ul style="list-style-type: none"> □ 予測方法の具体的な説明として、計算式と計算に用いる基礎的なものの具体的な値のみならず、事業計画等を基にどのように予測値を算出したのかについても報告させる必要があるか。 | <ul style="list-style-type: none"> • 当社は、スライド8に記載の内容について、見込みの考え方をあらかじめ整理し、接続料の届出前に総務省へご提示・ご説明しております。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> □ 予測値と実績値の差異（2020年度適用接続料）及び昨年と今年の予測値の差異（2022年度適用接続料）についての説明が、次年度以降の予測値の精緻化につながる内容になっているか。また、予測の精緻化の観点から、外部要因（βの算定方法の変更、コロナの影響等）とそれ以外の要因に分類し、それぞれについて説明を求める必要性について、どう考えるか。 | <ul style="list-style-type: none"> • 予測値と実績値の差異（2020年度適用接続料）及び昨年と今年の予測値の差異（2022年度適用接続料）については、スライド3～5でご説明のとおりです。 • 予測の精緻化の観点から、外部要因とそれ以外の要因に分類し、定量化して説明することは難しいと考えます。 • なぜなら、例えば、需要においては、コロナの影響と5G普及拡大等が変動の要因として挙げられますが、予測値と実績値の差異を定量化することができないためです。 |

予測の算定方法に関する論点

| カテゴリ | 論点 | 当社意見 |
|--------|---|---|
| 予測算定方法 | <p>□ MVNOに開示される算定方法に関する情報について、MVNOの事業運営における予見可能性を確保する上で十分と考えるか。</p> | <ul style="list-style-type: none">• 当社は、MVNOの事業運営における予見可能性を高める観点から、予測値に関する考え方について、総務省へご提示・ご説明した内容を元に、情報開示を行う考えです。• また、予測値に関する考え方以外に、MVNOが予見可能性を確保するために必要な事項があれば、可能な限り、真摯に説明を行っていく考えです。 |

原価の適正性確保に向けた論点

| カテゴリ | 論点 | 当社意見 |
|------|--|--|
| 原価 | <ul style="list-style-type: none"><li data-bbox="140 511 1071 725">□ 接続料算定の適正性を確保する観点から、各社が実施した原価の抽出において、適切に控除が行われているかどうかを確認するため、引き続き各社の抽出方法や配賦基準等を比較・検証することで、算定の精緻化を不断に図っていくことが重要ではないか。<li data-bbox="140 775 1071 1039">□ 原価の抽出方法や配賦基準等については、全て事業者間でルールを統一化する必要はないとしても、接続料算定の適正性を確保する観点から、事業者における算定方法や考え方には一貫性が必要ではないか。仮に算定方法や考え方に変更があった場合はその旨とその理由がわかるように報告させるべきではないか。 | <ul style="list-style-type: none"><li data-bbox="1104 689 2026 861">• 当社は、毎年度、接続料の届出前には、あらかじめ総務省へ算定方法や考え方の説明を実施しており、接続料算定の適正性を確保する観点から、算定方法や考え方に変更があった場合には、その旨とその理由を併せて説明する考えです。 |

利潤の予測の精緻化に向けた論点

| カテゴリ | 論点 | 当社意見 |
|------|--|---|
| 利潤 | <p>□ 「投資その他資産」及び「貯蔵品」の2項目について、各社のレートベースに占める割合等から、予測接続料に与える影響の度合いをどう考えるか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 「投資その他資産」及び「貯蔵品」の2項目について、当社のレートベースに占める割合は以下の通りです。 <p>＜2022年度適用の予測接続料＞</p> <p>【回線容量単位】 構成員限り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投資その他資産： ・貯蔵品： <ul style="list-style-type: none"> 当社においては、レートベースに占める割合は僅少であることから、予測接続料に与える影響は軽微であると考えます。 |

需要の適正性の確保に向けた論点

| カテゴリ | 論点 | 当社意見 |
|------|---|--|
| 需要 | <ul style="list-style-type: none"> □ 接続料の算定に用いる需要の定義として、事業者によって「設備の仕様上の性能限界値」と「設定上の制限値」で異なっていることについて、どう考えるか。 | <ul style="list-style-type: none"> • 需要の定義については、各社によってネットワークの構成や設備の運用ポリシー等が異なる点を踏まえ、検討することが必要であると考えます。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> □ MNOにおいて明らかに能率的とは言えないような経営が行われていないかどうか（実際のトラフィックに比してMNOにおけるネットワークのデータ伝送容量が過大なものとなっていないか）について、需要とトラフィックの関係という観点から注視していく必要性についてどう考えるか（データ伝送容量が過大か否かについて、適正な原価との関係において、どう考えるか）。 | <ul style="list-style-type: none"> • 当社は、4 MNO及びMVNOが存在する熾烈な競争環境下にあるモバイル市場において、スライド6のとおり、設備運用コストの効率化及びDX等による業務の生産性向上を図りつつ、高品質で経済的なネットワークを実現していく考えです。 • そのため、当社においては、明らかに能率的とは言えないような経営が行われているとの指摘には当てはまらないと考えます。 |